

製本のススメ

Vol. 156

梅雨時ですから 雨が降るのは仕方ありませんが かなり勢いよく降るのは困りものです。河川の氾濫など台風レベルな降り方が今年が多い様子。降らないと水不足になりますし 降りすぎても弱りますね。丁度いいっていうわけにはいかないのでしょうか。。。。

今回は**装幀**の話し

装幀は本の顔であり全体のイメージです。それぞれにふさわしい装幀がありイメージカラーで統一するもよし 織物のクロスで和風や洋風にするのも良いですね。論文や合本などはあまり色合いには拘らず、使うクロスも多くありません。織物クロスには重厚感があり出来上がりも迫力満点です 紙クロスは色も豊富で洋風にも和風にもなります。とりわけ記念誌はその歴史を記録するものでもあり 未来へ語り継ぐ資料でもありますから 内容の練りこみは大変ですね。そしてこの**内容を引き立てる見栄えの加工も大切です。**本の大きさや加工方法などを十分に打ち合わせる必要があります。クロスはその第一歩！其々に良さがありますので、装幀イメージに沿ったクロスを選びたいものです。**余談ですが 上製本の表紙は 何故本文よりも若干大きくできていると思いませんか？**それは本文を保護するためです。落としたり ぶついたりしても表紙が大きいので 本文に与える影響が小さくて済むのです。それほど大切な内容という事ですね。同様に花布(ハギレ)も本文の天地角を保護している部品です。

さて、記念誌は上製本だけとは限りません。重厚感は少々変わりますが**表紙の小口をカバーのように折込んだ加工(ガンダレ加工)**も趣があります。**一般的な並製本とは一線を引く加工**でもあり 三方断裁された冊子よりも小口に若干のチリが付きますので 控え目ながらも しっかりと主張した製本加工です。表紙のデザインも自在に演出でき 堅苦しさをない記念誌と言ったところでしょうか。



Teabreak

土用の丑の日とは知られていますが、そもそも土用っていつなのか調べてみました。土用とは立春・立夏・立秋・立冬の前の各 18 日間を指すそうですが 一般的には立秋前の 18 日だそうです。江戸時代には とりわけ暑いこの時期の丑の日に薬湯へはいたりお灸をしたりして夏バテを防いだそう。なかでも「ウ」のつくものを食べると身体に良いとされ、梅干し ウリ ウナギとなったそうです。ひよっとすると平賀源内の仕業かもしれませんね。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本